

第36回大阪府住宅まちづくり審議会 議事録 概要

日 時：平成27年7月23日（木）9時30分～11時30分

場 所：プリムローズ大阪 3階 高砂の間

議 事：大阪における今後の住宅まちづくり政策のあり方（中間とりまとめ素案）について

【議事】大阪における今後の住宅まちづくり政策のあり方（中間とりまとめ素案）について

・事務局より資料1～2を説明。以下、質疑応答・意見交換

委員名	意見概要
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none">・本審議会では、現住宅まちづくりマスタープランの進捗状況等を確認し、これからの政策のあり方について様々な改善策や方向性の議論を進めてきたが、評価指標の進捗結果が必ずしも揃っていないこともあり、計画の進捗管理を全てやりきって、政策のあり方の議論を進めるということではなく、本審議会でも継続して議論を行っているところ。・部会での議論は、現住宅まちづくりマスタープランの枠組みの中での検討を行うことも重要だが、それだけを行っていいのかということと、これまで主として「安心安全」の取組みは、大阪府では様々な施策も蓄積もあるが、「活力と魅力」の取組みは、まだまだ十分な施策が展開されていない、どちらかというと、安心安全が確保された上で、活力を展開するという位置づけがこれまでではされてきている。・まだまだ、居住魅力を創出するという部分が弱く、活力・魅力を創出するという観点での課題をもって議論すべきということで部会の議論が始まっており、その背景としては、日本全体の少子高齢化の大きな流れの中で、大阪府が必ずしも安心安全をコツコツと確保していくことだけでは住みやすいまちになっていかないのではないか、もう少し人口減少化の中での政策の全体像を見直さなければならないのではないか、ということがある。・もう一方で、この審議会自体が前身の住宅対策審議会を引き継いでいることから、住宅政策を中心に議論しており住宅に着目した議論の蓄積があるが、もっとまちのレベルの議論を深めなければいけないという意見もあった。住宅の議論からまちづくりの議論をしなければいけない、そちらにむしろ重点をおく議論をしながら、一方で住宅の議論をしなければいけない、ということがあったかと思う。・したがって、居住魅力の創出に関する議論や、都市レベル、まちレベルの議論、あるいは、まちをどのように認識すべきか、という根本的な問題も含めて部会で議論されており、それらの議論の経過報告としての中間とりまとめがされている。・居住魅力の目標像としては、大阪は、特定の住まい方というより、多様な住まい方ができることが魅力であり、個人の住生活のシナリオについて様々に考え、実現できる状況を作っていくためにはどうすればよいかということを考えることで、居住魅力の創出が議論できるベースが見つかるのではないかと、ということで多様な住まい方について意見を出していただいた。

	<p>以上がこれまでの審議会と部会のあらすじである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのため、多様な住まい方についてご意見をいただきたい。
事務局からの説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本日欠席の委員から事前にご意見をいただいておりますので、ご紹介させていただきます。 ・少子化対策は住宅まちづくり政策だけでなく、色々な政策とパッケージとして進める必要があり、それらが互いに連携していることがみえてくる必要がある。 ・世代の偏りが問題化してきており、コミュニティを維持するためには子育て世代と高齢者世帯が交流して住むなど、多様な世代がバランスよく揃っていることも考慮する必要がある。 ・大阪の都市活力をあげるには経済活力をあげていく必要があるため、企業誘致や中小企業の活力をあげていくことが必要である。 ・大阪は職住近接もできるなど住みやすい一方で、街頭犯罪やDV被害も日本一など理想とギャップに対してどのように手を打つべきか考える必要がある。 ・東京や京都、神戸に比べて大阪には芸術や文化的魅力の側面が少ないように感じる。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-1 (P. 22)「④住宅まちづくり政策を議論する際の、地域の捉え方」では、「大阪は地域がパッチワークのように点在」していることを魅力としているが、そうした小さな地域のまとまりを大事にするような考え方を都市構造の方にも反映させた方がよいのではないかと。小学校等地域施設を統廃合してまとめるのではなく、地域地域に施設が点在して生活しやすい都市ができるという視点が都市構造としても重要である。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-1 (P. 42)「⑥学びとともに住まう」について、「大阪には人気の高い大学」が唐突な感じがするので、個性豊かな大学、あるいは多様な学習に応えられる大学とした方が適切である。 ・イメージ写真は分かりやすいが、大阪にないものが入っていると少し違和感があるので、最終的には大阪のものにした方がよい。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-1 (P. 37)「①大都市の圧倒的な魅力を楽しみながら住まう」について、大阪には、美術館や博物館、天神祭など、日本でも有数のものがいくつもあり、それが都市の魅力であるにもかかわらず表現されていない。演劇でも最先端のものがくるなど、そういったことを都市の魅力として記載することが必要ではないか。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・整理の仕方にかかわってくるが、文化施設だけではなく文化活動と住まいとの関係についてもあるということ。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・作業部会では、ビジョンの目次構成について色々と意見を述べてきた。こまかな文言の修正の余地はあるが、ストーリー的にはおおよその構成でよいと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-1 (P. 32)「大阪の特徴」では、都市の周辺地域について、例えば不便だけど趣味が活かせる生活ができる、例えば、都市周辺では農地付住宅、里山付住宅とか、趣味の釣りが毎日できる生活があるとか、そういった極端な住まい方など、大阪の周辺部をどう扱うのかということをごどこかで取り上げる必要があるのではないか。 ・また、「大都市の魅力」「大都市でありながら持つ魅力」の項目に記載されている「など」が何かにより、将来像の 10 項目が成立するかどうかに関係してくる。 ・資料 2-1 (P. 36)「大阪に住まう」将来イメージ(例)」では、住職近接と子育てをからませているが、子育てを楽しむという自然環境も絡んでくるため、子育てを楽しみながら、ということだけでもよいのではないか。その他として、項目はこれでよいと思う。項目の並びについては検討する余地がある。 ・将来先細りする自治体の後押しとなるような項目を追加する必要があるのではないか。例えばリタイアされた方が自給自足の暮らしをされるなど、特殊な住まいのニーズに対応する項目があってもよいのではないか。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・10 項目の将来イメージが健全な大人の視点で書かれている気がするので、子どもがのびのびと育つ住まいなど、子どもの視点からみて住みやすいまちといったものが表現されてもいいのでは。全く違う立場の人の視点など色々な視点を混ぜてもよいかと思う。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・将来イメージについては、生活の主体をどこに置くかということなので、10 項目でなければならないということはない。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・府民が日常生活の中で住まいの問題をどう考えているのか、そういったことをきっちり整理する必要がある。 ・この審議会では、大阪府民の住まいをどのようにして、もっと豊かにグレードを上げていくかということを示すことが重要だと思う。大阪府民の住まいは解決していないというのが率直な意見。なぜ、府民の格差が広がっているのかといったことも解明し、解決の方法を示すような論議もお願いしたい。 ・都心は文化やコミュニティの面で他に誇れるようなものがたくさんあるが、なぜ人口が減っていくのか、本当に住みよいまちになっているのか、現状認識も論議をお願いしたい。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の住宅まちづくりマスタープランにおいて、安心・安全をまだ満足していない住まいについては、解決に向けた継続的な議論が必要だが、そういった議論をしている間にも、どんどん体力がなくなっている状況が大阪圏に見られる。 ・作業部会では、都市魅力の創出が達成されることによって、安心・安全をより高めることに作用するといった相互の関係が期待できるのではないかというポジティブな観点からの議論があり、その関係の中で目標が達成されるとの考え方が示された。 ・また、まちが住みやすくなると住宅が良くなるという関係についても相互性が

	<p>あって、まちが基礎でその上に住宅が乗っていると考えていた事柄を横並びで考えていくことが人口減少下の住まいまちづくり施策にとって有効ではないかという議論があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このように、アプローチの仕方として、従来のような考え方だけでは、これからの大阪の住まいまちづくりは、ジリ貧になっていくという認識のもとで、アプローチの仕方を変えるというのが今回の作業部会のベースにある。 ・ただし、安心・安全の問題は、都市魅力の議論の中でどのように関連づけていくかは、まだまだ議論ができていないし、現行のマスタープランでの検討も十分にできていないため、審議会において、今後統計資料がまとまり次第、事務局から報告をいただき、継続して議論をしていかなければならない。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-1 (P. 43) 「⑦包容力のある大阪で、人のあたたかさに包まれて住まう」について、大阪では、全小学校区に地区福祉委員会や校区福祉委員会等の福祉活動を目的とした住民組織があり、「大都市部でありながら、つながり豊かなコミュニティのある大阪」など、都市部でありながらコミュニティが強固ということは、他都市にない大阪だけの特徴だと思う。 ・「くらしを支える様々なサービス」について、豊中市では、2004 年から全国に先駆けてコミュニティソーシャルワーカーを配置しており、他都市にはない先駆的なくらしを支えるサービスがあるというのも大阪の特徴である。 ・「子どもからお年寄り、障がい者」とあるが、当事者の活動がとても活発なので、「当事者として」「生活者として」だれもが生き生きとくらすなど、そういった都市であるということが含まれるとよりよいのではないか。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードだけではなくソフトのくらし方も含め、大阪の魅力をしっかりと伝えていくことが大事だと感じた。 ・安心安全についてもしっかり記載をされているので、しっかりバランスを取っているという感想をもった。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に誇れるものがたくさんあるという魅力もあるが、一定レベルよりも下のものがないという魅力も考える必要があるのではないかという議論もあった。必ずしも高いレベルのものだけがあるという価値観だけでなく、あるレベルよりも低いものにはなっておらず、どこの地域でも達成できているということを魅力の要素として考えることも重要である。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ますます高齢化が進み、施設や病院が一杯で入りたくても入れなくなるなど、在宅看護や在宅医療の増加が予想されることから、福祉施策を充実させることが必要になると思う。 ・府営住宅 1 万戸を市に移管するという新聞記事を目にしたが、市へ移管することで効率がよくなるのか。
事務局からの説明	<ul style="list-style-type: none"> ・市への移管は、住民に身近な基礎自治体である市の福祉政策やまちづくり政策と連携できるという方針によるもの。また、市営住宅と府営住宅は隣接している地区が多く、移管することで一体的な建替えが可能になるなど、費用、期間

	の面等でも効率的になると考えている。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 市への移管が進むと市内での府営住宅はこのままでは0になるが、府として市の住宅問題を解決していく責任はどうなるのか。論議しておかなくてもよいのか。
事務局からの説明	<ul style="list-style-type: none"> これまでの住宅セーフティネット施策は、府営住宅等の公的賃貸住宅の供給を中心に展開されてきたが、民間や他の公的住宅を含めた住宅市場全体で住宅確保要配慮者の居住の安定化を図る方針で展開している。 大阪市へ府営住宅を移管するが、府民が一定数は入居できるような配慮をしており、大阪市も入った居住支援協議会の中では、民間賃貸住宅を活用した住宅の確保を検討している。民間賃貸住宅でサービスを受けながら居住の安定を図れる政策を展開し、住宅市場全体で居住の安定を図っていきたいと考えている。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 住宅まちづくりのあるべきものとして、大阪府民が健全で安全に居住できること、付加価値をつけた住環境を整えていくイメージで捉えると、今の住まいの居住魅力を高め、他府県との競争に打ち勝って魅力づけをすることも考えていく必要がある。 住宅まちづくりの取組みとして、人口増加につながるような子育て環境や住まいやすい環境に関する施策や、外国人の方の居住や留学生の受け入れなど、外国の方々が大阪を選んでもらえる環境づくりといった施策もある。 大阪府全体として取り組む共通のテーマと、地域のポテンシャルを生かした地域ごとのテーマで、住まい方の提案を分けることができるのではないかと。大都市系とその周辺部と、さらにその周辺をどうするかという地域性を考えると、都市周辺地域の市街化調整区域での住まい方など、外側の話しのテーマが出てきても面白いと思う。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー効率のよい住宅、整った公共交通システムなどにより、1人当たりの炭素排出量が小さい効率のよい住まい方ができるということも大都市の魅力だと思う。一方で不便なくらしを求める人もいるとは思いますが、多くの人に効率のよい暮らしをしてもらうということをもっと前面に出してもいいのではないかとと思う。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 大阪は他都市に比べて世界に容易にアクセスでき、日本のみならず世界を満喫できるということも大阪の居住魅力の重要な柱ではないかと思う。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 全国的にも限界集落の問題があり、小さなコミュニティの中だけで活性化することはなかなか難しいが、大阪は全域がこじんまりしているため、地域間や市町村間の交流、循環がしやすく、モノやサービスの行き来を促進することが必要である。 高齢化社会の中で、子どもや若い人たちがいかに関わられるかといった世代間の交流など、そういった視点をしっかり書ければと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅と福祉はセットで考える必要があり、住まうということと福祉の融合をもっと前面にだしてもよいかと思う。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-1 (P. 40) 「④歴史・文化に囲まれて住まう」について、「カフェに活用」「リノベーション」とあるが、今の流行りにひっぱられた書き方であり、大阪の居住文化を大事にしたような書き方にした方がよい。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪は大都市の割に、背伸びをしなくても住めるようなまち、個人の個性を工夫して生活するにはもってこいの住みやすいまちだと思う。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の住宅のあり方について、もれなくまとめられていると思う。 ・その土地の持つ魅力やポテンシャルを最大限に引き出して開発をすると特徴をもったまちづくりが行われ、そういったところでは強引に人口を増やさなくても自然に人口が増えていく。同時に鉄道の乗降客数も増え、色々な施設も集積し、みんなが投資しまちづくりをしてくれる。そういったきっかけを作るのが民間のデベロッパーであり、行政ときちんと協議をしながら今後もまちづくりに取り組んでいきたい。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・答申とりまとめにあたり、議論すべき事項について意見書を提出してもよいか。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・意見書はぜひ出していただきたい。スケジュールにも記載をしているが、まだまだプロセスはあり、審議会での議論もある。意見書をいただければ作業部会でも議論することが可能である。